

「日本諸事要録」にみる食に関する記述について 女子栄養大栄養 松本仲子

目的 「南蛮料理書」は南蛮の菓子や料理を集載するものとして貴重な存在であるが、成立年代や内容などについては未だ不明な点が多い。本書の理解を深めるには、南蛮についての知識を広汎に蒐集することが望ましく、その一環として1579年、1590年、1597年の三たび巡察師として来日したイエズス会の司祭であるAlessandro Valignanoが著した表記の文献にみえる食に関する事項について検討した。

方法 「日本管区及びその統括に属する諸事の要録」（1583年筆）及び同「補遺」を底本とする「日本諸事要録」に記された食に関する記述を全て収集し、関連のある事項をまとめて内容を整理した。本書は在日イエズス会宣教師の最高監督者としての著者がローマの総長に宛てた機密に属する報告書で、当時の日本のキリスト教内部の深刻な諸事情の内面を窺うことができるものである。

結果 日本国内の修院に居住する宣教師や同宿、学院の子供等の食事をはじめ、外来の客にふるまわれる食事を通して、南蛮に関与する人々の食事をかいま見ることができた。記述中主な内容は接待と食嗜好に関与することに大別された。接待に関する事項については日本人の慣習として接待は必要欠くべからざるものであり、それは厳格に客の身分に応じたものであること、またこれにかかる費用は修院の人々の食費の半額に達するとしている食嗜好に関するものとしては日本人と欧州人の嗜好の相違は、味覚や嗅覚において一方に満足を与えるものは他方を嫌悪させるものであると認識しながら、布教のためには自らを制して嗜好を棄て、日本の食物に適應せねばならぬと、嗜好の馴化を促している。